

1964

會期
會場

三月八日 — 四月五日
上野公園 東京都美術館

大東亞戰爭陸軍作戰 錄畫發表

陸軍美術展覽會

主 催

後 援

朝日新聞社

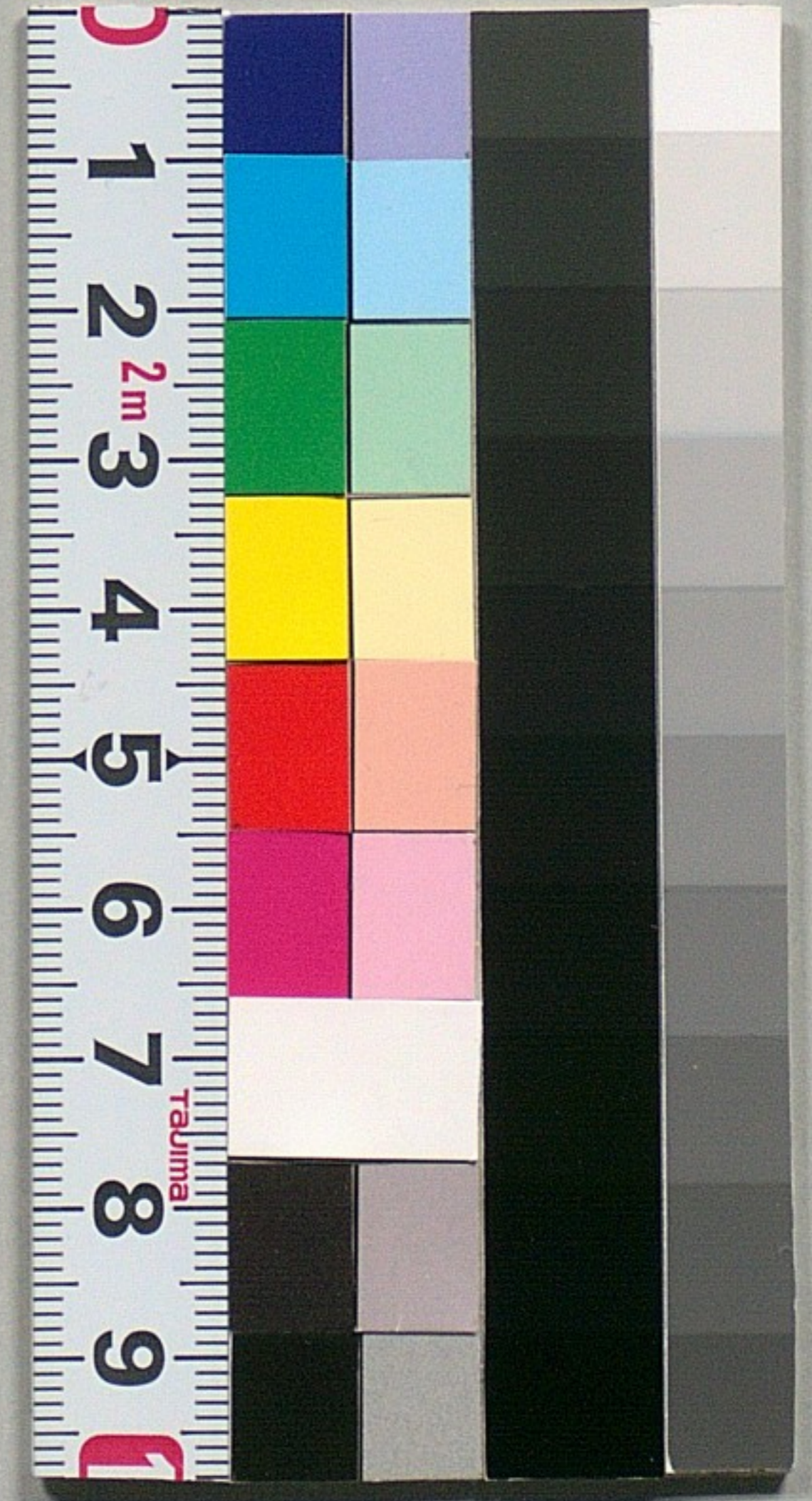
陸軍美術協會

陸軍省

情報局

③

194



趣 旨

一には作戦の記録資料として、一には兒孫幾世に傳へて皇軍の善謀勇戦を偲ぶべく、陸軍が作戦記録畫の製作を企て、陸軍美術協會所屬の畫家をして作畫せしむること既に三回、その作品は兩度にわたり畏くも 天覽、台覽の榮に浴した。

苛烈なる決戦下、昭和十八年秋より冬にかけてビルマ、比島、南太平洋の南方諸地域をはじめ、支那、滿洲の各現地に派せられた作家二十六名、その心魂を傾けた作品は今や美事に完成し、茲に三度 天覽、台覽の榮を忝うした。前線將兵に垂れさせ給ふ御仁慈の程、洵に恐懼感激の極みである。

大東亞戦争決勝の鍵は、戦力の増強と士氣の昂揚にある。朝日新聞社並に陸軍美術協會は、これ等作戦記録畫と、部隊がその郷土出身者をして描かした部隊戦闘記録畫十數點の貸下を請ひ、併せて美術の戦力化を志して挺身する美術家の力作、各美術學校共同制作、全女流畫家を網羅せる女流美術家奉公隊の共同制作等數百點を結集し、以て米英撃滅、必勝の信念を銃後に示さんため、茲に「陸軍美術展」を開催する。

昭和十九年は決勝の年と示された。各國民が各その職域に全力を盡すこの時、美術家が美術を武器として戦はんとするこの企てに、大方の支持、協力を切望する所である。

第一室 油畫

- 1 出發 前(陸軍美術獎勵賞)
- 2 ニューギニア戰線
- 3 診療班
- 4 任務を果して
- 5 出動する船舶兵(朝日新聞賞)
- 6 學徒出陣(情報局賞)
- 7 ビルマ進攻作戰開始(陸軍美術獎勵賞)
- 8 シンガポール上陸第一步(陸軍美術協會賞)
- 9 野戰
- 10 出動準備(陸軍美術獎勵賞)
- 11 緬印國境を征く

會員 藤岡俊一郎

橋本八百二

松尾正巳

塙忠

川端實

鈴木滿

高田正二郎

岡田謙三

高橋道雄

高山道雄

土橋醇一

【四】

12 アツツ島爆撃

13 米兵降伏

14 病院船ぶえのすあいれす丸

15 鬼畜アメリカの暴虐

16 北の精銳

17 大空に挑む

18 手をあげた英兵

19 馬糧收穫に働く女

會員 小川原脩

竹谷富士雄

橋本徹郎

長屋勇

高井貞二

永田禎彌

永田精二

大澤海藏

第二室

日本畫

20 戰線晴日

21 落下傘工場

22 生産敢闘

久連石雨董

堀文子

小川竹生

【五】

23 腕 視
 24 馬 來 作 戰 繪 卷
 25 進 軍 譜
 26 山 の 奉 公 (秩父)
 27 彈 藥 起
 28 傷 痍 再 起
 29 開 墾 (内原義勇軍)
 30 索 敵 行
 31 出 擊
 32 銃 後 の 子 供
 33 兵 士 像
 34 イ ン デ ン 夜 襲
 35 上 陸 點 近 し

河村光彩
 會員 福田豊四郎
 佐藤永芳
 關根雅雄
 井上陵華
 村山三魁
 高島祥光
 田所量司
 長嶺雅男
 大石哲路
 三澤孝松
 會員 小早川秋聲
 高柳博也

36 決 勝 の 誓
 37 兵 を 驢 る

伊藤文乙
 大宮俊興

第三室 日本畫

38 學 徒 出 陣 (陸軍美術獎勵賞)
 39 機 上 教 育 (陸軍整備學校)
 40 少 年 通 信 兵
 41 陸 軍 少 年 飛 行 兵
 42 砲 擊 陣 地 (朝日新聞賞)
 43 陸 軍 少 年 戰 車 兵
 44 少 年 通 信 兵
 45 曉 の 渡 河 (陸軍美術協會賞)
 46 驀 進 (輸送敢闘)

岩淵芳華
 會員 岩田專太郎
 藤田復生
 會員 大石哲路
 小島一谿
 會員 吉村忠夫
 野口昂明
 會員 米田莞爾
 中村岳陵
 會員

【七】

【六】

47 小 休 止
 48 征 途
 49 勇 士 群 像 (小休止)
 50 決 戰 工 場

會員 岩田專太郎

志村立美

岩崎鐸

内山英一

第四室 油畫

51 揚 陸 作 業
 52 進 擊 の 記 録
 53 敵 陣 粉 碎 す
 54 小 休 止 (陸軍大臣賞)
 55 義勇隊を送る高砂族
 56 ソ 滿 國 境 警 備
 57 肉 薄

會員 平通武男

會員 三輪孝

會員 島村三七雄

會員 鬼頭鍋三郎

會員 鶴田吾郎

會員 荻須高德

若松光一郎

58 人 城 前
 59 憤 怒
 60 彈 藥 輸 送
 61 靜 夜 布 陣
 62 燒 林 前 進
 63 送 れ、一機でも多く
 64 機 關 銃 隊
 65 常 德 一 路
 66 再 起 を 待 つ
 67 小 國 民 敢 闘 譜

會員 白石隆一

鈴木誠

津田正毅

伊藤清永

齋藤求

會員 榎倉省吾

刑部人

吉原義彦

宮永岳彦

福田新生

第五室 油畫

68 驍 騎 進 軍

辻村八五郎

【九】

69	突 擊 寸 前	關 口 文 雄
70	突 擊	林 唯 一
71	蒙 古 馬 軍 馬 徴 之 圖	會 員 深 澤 省 三
72	追 ひ 出 せ、叩 き 潰 せ	會 員 福 澤 一 郎
73	ヒ マ ラ ヤ 上 空 邀 撃 戦	會 員 奥 瀬 英 三
74	密 林 の 朝	會 員 鈴 木 榮 二 郎
75	少 年 戦 車 兵 の 整 備	横 山 重 夫
76	新 作 戦 へ	玉 井 力 三
77	軍 神 に 捧 ぐ	會 員 中 山 巍
78	濕 地 帯	會 員 新 居 廣 治
79	移 動 修 理 班 の 活 躍	會 員 内 田 巖
80	曉 の 敵 前 上 陸 (陸 軍 船 舶 兵 の 奮 戦)	會 員 佐 藤 敬
81	追 撃 戦	會 員 高 野 三 三 男

101

第 六 室 油 畫

大 東 亞 戦 争 陸 軍 作 戦 記 録 畫

82	佐 野 部 隊 長 還 ら ざ る 大 野 挺 身 隊 と 訣 別 す	田 村 孝 之 介
83	大 野 挺 身 隊 敵 高 等 司 令 部 に 突 入 奮 戦 す	田 村 孝 之 介
84	血 戦 ガ ダ ル カ ナ ル	藤 田 嗣 治
85	神 兵 の 救 出 到 る	藤 田 嗣 治
86	タ サ フ ア ロ ン グ (ガ ダ ル カ ナ ル に 於 け る 陸 海 共 同 作 戦 圖)	中 村 研 一
87	日 緬 條 約 調 印 圖	小 磯 良 平
88	ビ ル マ 獨 立 式 典 圖	小 磯 良 平
89	本 間、ウ エ イ ン ラ イ ト 兩 司 令 官 會 見 圖	宮 本 三 郎

111

第七室 油畫

大東亞戰爭陸軍作戰記錄畫

- 90 マユ河渡過
- 91 スタンレー山脈の高砂義勇隊
- 92 揚子江三角地帯春季進攻作戰
- 93 香港に於ける酒井司令官、ヤング總督の會見
- 94 怒江作戰
- 95 マユ山壁を衝く
- 96 ○○方面鐵道建設
- 97 汪主席と中國參戰

- 田中佐一郎
- 鶴田吾郎
- 井上幸
- 伊原宇三郎
- 栗原信
- 向井潤吉
- 猪熊弦一郎
- 清水登之

【二三】

第八室 油畫及日本畫

大東亞戰爭陸軍作戰記錄畫

- 98 新生比島建設
- 99 インデン附近の戰鬪に敵英第六旅團長我軍門に降る
- 100 小田軍曹機の體當り敢行よく船團を救ふ
- 101 山東省馬鞍山廟陣地攻撃

- 川島理一郎
- 小早川秋聲
- 吉岡堅二
- 矢澤弦月

第九室 油畫

大東亞戰爭陸軍作戰記錄畫

- 102 ニューギニア密林地帯を征く陸軍輸送部隊

- 伊藤悌三

【二三】

- 103 西部蘇滿國境警備
- 104 東部印度チンスキヤ爆撃
- 105 アラカン山系を突破する有延支隊
- 106 患者後送と救護班の苦心
- 107 衛生隊の活躍とビルマ人の好意
- 108 コレヒドール猛砲撃
- 109 九龍城門貯水池二五五高地の奮戦
- 110 ラングーンの防空とビルマ人の協力

第十室 油畫

- 111 進發
- 112 模型機による祕策傳授
- 113 朔北の騎馬斥候隊

- 石井柏亭
- 高島達四郎
- 柏原覺太郎
- 鈴木良三
- 鈴木良三
- 笹岡了一
- 伊勢正義
- 鈴木亞夫

- 守田滋
- 瀬川美津子
- 鳥取敏

- 114 陸鷲
- 115 熱汗
- 116 軍神山崎部隊長像
- 117 難路澤州へ
- 118 硝煙の常德を衝く
- 119 學徒出陣
- 120 前線の勇士
- 121 肉薄
- 122 デリへ
- 123 敵都近し
- 124 仁
- 125 一意・敵岸へ
- 126 雪原を征く

(敵傷兵救出)

- 早川重章
- 戸田定
- 會員 松田文雄
- 坂田虎一
- 荻太郎
- 佐々木宗一郎
- 新海覺雄
- 田代光
- 坪井甚喜
- 會員 有岡一郎
- 村上鐵太郎
- 熊澤欽三
- 洗春海

【一五】

【一四】

151 氣 象 觀 測
 152 常 在 戰 場
 153 彈 雨 下 の 給 水
 154 戰 鬪 機 整 備
 155 ニューギニア上空の戦闘
 156 働 く 南 方 の 女
 157 砲 彈 到 着
 158 勤 勞 奉 仕 の 人 々
 159 兵
 160 炭 山 敢 闘
 161 銅 鐵 増 産

第十二室 油 畫

【二八】
 中村新次郎
 中村節也
 守屋千之
 増田雅子
 中尾進
 横山泰三
 小松益喜
 山内豊喜
 能見三次
 上野省策
 吉田遠志

162 航空機タンク加工
 163 タラワ、マキンの勇士に續かん
 164 特 火 點 攻 撃
 165 拂 曉 の 突 入
 166 スマトラ、パレンバン遡江作戦
 167 治 安 へ
 168 あゝ南溟の密林に
 169 防空都市建設私案(密集都市と疎開せよ)
 170 我 等 も 續 かん
 171 武 藏 野 の 獻 木
 172 クリークを渡る
 173 軍用船舶木材を運ぶ農民
 174 木 曾 谷 の 筏 木

須山計一
 市野長之介
 會員 末永胤生
 伊藤彪
 會員 坂井範一
 伊藤善
 金子真次郎
 今井憲一
 筒井茂雄
 青柳暢夫
 佐野猛
 三芳悌吉
 大月源二

175 闘 ぶ 農 村
 176 木曾御嶽山麓に於ける木炭供出
 177 遺 影
 178 戦 塵
 179 南 溟 決 戦 譜
 180 山 嶮 突 破
 181 鐵 橋 爆 破 作 業
 182 敵 陣 な ぐ り 込 み
 183 薄 夜 進 發
 184 敵 軍 降 服
 185 敵 前 四 〇 米
 186 銃 器 を う つ 兵 士

會員 高橋庸男
 會員 山本日子士良
 會員 小寺健吉
 八 鍬 四 郎
 笹 鹿 彪
 鈴 木 新 夫
 深 谷 栖 州
 永 井 保
 桑 田 道 夫
 熊 野 禮 夫
 田 中 實 一

【110】

第十三室 油畫

187 死 明 戰 (弘前師團委囑)
 188 黎 中 兵 士 (旭川師團委囑)
 189 雪 中 の 兵 士 (旭川師團委囑)
 190 軍旗を捧持して(光華門城壁を登る脇坂部隊)(脇坂部隊委囑)
 191 北 の 護 り (旭川師團委囑)
 192 眞 晝 の 突 擊 (旭川師團委囑)
 193 大 場 鎮 突 破

菊 地 精 二
 佐 々 木 精 治 郎
 武 田 範 芳
 堀 田 清 治
 小 濱 關 邨
 國 松 登
 細 井 繁 誠

第十四室 油畫

194 選 炭
 195 陣 地 構 築

鳥 居 敏 文
 北 宏 二

【111】

198 (共同制作) 大東亞戰下皇國婦女皆働之圖

——秋冬(三部作)の部

女流美術家奉公隊

197 餘 榮

會員 和田 香苗

198 (共同制作) 大東亞戰下皇國婦女皆働之圖

——三部作(和畫の部)

女流美術家奉公隊

199 整 備 兵

青木 純子

200 (共同制作) 大東亞戰下皇國婦女皆働之圖

——春夏(三部作)の部

女流美術家奉公隊

201 砲 擊

會員 江 藤 純 平

202 (共同制作) 共 榮 の 礎

日本大學藝術科美術科

203 (共同制作) 月下に征く

東京美術學校油畫科二年

204 (共同制作) 學徒壯途の朝

東京美術學校油畫科三年

205 (共同制作) 決戰二十四時間

多磨美術學校油畫科二年

208 (共同制作) 女子皆働(學校工場)

多磨美術學校女子部

207 (共同制作) 據 兵 潰 ゆ

京都繪畫專門學校

208 (共同制作) 護 り

京都繪畫專門學校

209 (共同制作) 炭 坑

帝國美術學校二年

210 (共同制作) 決 戰 増 産

帝國美術學校

211 進 め 亞 細 亞

會員 高 澤 圭 一

212 山 崎 部 隊(アツツ島玉碎決意)(旭川師團委囑)

岩 船 修 三

213 夜 襲 跡

居 串 佳 一

214 戰 跡

行 木 正 義

215 續 造 工 場(東部第三六部隊委囑)

竹 澤 要 作

216 鍛 造 工 場(相模陸軍造兵廠委囑)

小 泉 當 司

217 鑄 造 工 場(相模陸軍造兵廠委囑)

鈴 木 清

218 都 市 防 護

伊 川 藤 義

219 イラワジ河畔

今澤今朝男
【二四】

第十五室 油畫

220 赤柴部隊微山湖渡湖作戰(赤柴部隊委囑)

片岡銀藏

221 任務重し船舶兵

會員 神保和幸

222 兵隊と良民

奈良岡正夫

223 密林突破

佐川源治

224 突擊(陸軍士官學校委囑)

會員 關谷陽

225 關東軍雪の鍊成(滿洲南部防衛司令部委囑)

野田武太郎

226 少年飛行兵の活躍

中田秀和

227 濁流を渡る

酒見恒平

228 昭和十八秋太岳作戰(勝兵團戰鬪司令部)(弘前師團委囑)

奈良岡正夫

229 米兵敗走

西村愿定

230 敵殲滅の歡喜

宮脇公實

231 キスカ島に於ける和田高射砲隊の奮戰

田中忠雄

232 パリツク・パン敵前上陸(陸軍部隊の進撃)

田邊穰

233 英軍降服直前の戦線(松井部隊委囑)

小早川篤四郎

234 東條兵團

内田武夫

235 湊川鍛鍊道場

奥村隼人

236 増産の山

田中修

237 在支米空軍基地爆撃(北支〇〇〇部隊委囑)

大橋城

彫塑之部

238 増産挺身

宮本光庸

【二五】

- 239 闘魂
- 240 兵と馴鹿
- 241 ジヤカルタ(大東亞建設記念碑B) 會員 古賀忠雄
- 242 擔
- 243 北邊鎮護(大東亞建設記念碑の一部)
- 244 大東亞建設記念碑(新京)(縮尺1/100) 會員 中川爲延
- 245 獨立の朝(ビルマ獨立記念碑の一部) 會員 本郷新
- 246 肉薄
- 247 決勝の大空へ
- 248 市井に起つ(陸軍美術協會賞) 會員 木下繁
- 249 ビルマ國家代表バー・モウ氏像 會員 中野四郎
- 250 北の陣 會員 佐藤忠良

- 251 プキ・テマ戦跡記念碑(部分、縮尺1/10) 會員 笠置季男
- 252 國民政府主席汪精衛氏像(朝日新聞賞) 會員 水船六洲
- 253 盾人宿禰
- 254 兵
- 255 コレヒドールの朝 會員 中村直人
- 256 自由印度假政府首班チャンドラ・ボース氏像 會員 岡村進
- 257 敵國在留邦人を憶ふ 會員 長沼孝三
- 258 陸鷺の父 會員 藤島茂
- 259 出撃
- 260 基地建設
- 261 拂曉
- 262 女子防空通信隊員 會員 安田周三郎
- 263 比島大統領ラウレル氏記念碑(縮尺1/50) 會員 清水多嘉示

- 264 昭南に寄す(大東亞宣言塔) 會員 鈴木賢二
- 265 大東亞建設碑(香港)(縮尺1/500) 會員 圓鏗勝二
- 266 バト(飛躍の一部)(縮尺1/3) 會員 圓鏗勝二
- 267 聖戰記念碑(ラバウル)(縮尺1/40) 會員 長沼孝三
- 268 ガダルカナル闘魂碑 會員 濱田三郎
- 269 ジヤカルタ(大東亞建設記念碑A)(縮尺1/50) 會員 古賀忠雄
- 270 大東亞建設記念碑(盤谷) 宮島久七
- 271 群長讚像 長野英夫
- 272 必殺の構へ 分部順治
- 273 木炭増産挺身隊 松森一三
- 274 撃ちてし止まむ 小川大系
- 275 決闘 成田政男
- 276 設営人 村井辰夫

追加 (日本畫)

- 277 陸鷺進攻 中島卯一郎(第二室)
- 278 爆撃機編隊訓練 西山英雄(第三室)
- 279 軍屬に寄す 山口芳央(第二室)
- 280 王勁哉軍本陣攻撃之圖(中支派遣廣部隊委囑) 横尾龍芳(第十三室)

4

東京文化財研究所



2501031685

1944

陸軍美術展

三月八日—四月五日

於上野公園都美術館

陸軍省大東亞戰爭作戰記錄畫

解說

主催
後援

朝日新聞社
陸軍美術協會
陸軍省
情報局

血戦 ガダルカナル

藤田 嗣治

ガダルカナル島に於ける皇軍部隊が、暗夜を利し、スコールを冒し密林を突破して敵陣に突入せる壯烈なる場面を描く。

神兵の救出到る

藤田 嗣治

皇軍來の聲に怯えた蘭印の高官豪商が、その善美豪奢を極めた調度を散亂させ、濠洲印度に逃亡した周章狼狽の跡を描いたもの。敗戦に對する警告的な意圖を含むものである。

九龍城門貯水池二五五高地の奮戦

伊勢正義

二

香港攻略緒戦に際し偉勳を樹てた西山部隊の奮戦を畫材としたもので、昭和十六年十二月九日夜、同部隊が二五五高地を攻略、三四一高地制壓と共に西南凸角高地に對し最後の夜襲に移らんとする情景を描いた。

マユ山壁を衝く

向井潤吉

昭和十八年四月三日、緬甸マユ半島に蟠居する英印軍を殲滅すべく進發する宇野部隊を描く。象の足跡を辿り蔓にすが

り部隊長自ら軍旗を捧持して大密林を突破する至難の行軍であつた。

スタンレー山脈の高砂義勇隊

鶴田吾郎

昭和十七年七月、ニューギニアのブナ附近に上陸した高砂族義勇隊が、凡ゆる困苦と戦ひ、時には敵兵と戦闘を交へつつ皇軍部隊の輸送に協力する逞しい姿を描いたものである。

怒江作戦

栗原信

昭和十七年五月、ビルマ公路を退却する重慶軍を隨所に撃

三

破した機械化部隊坂口兵團は、一路雲南省怒江の線に殺到した。本圖は我が砲兵部隊の猛撃を主題としたものである。

四

アラカン山系を突破する有延支隊

柏原覺太郎

昭和十七年十二月、アラカン突破の命を受けた有延支隊は本隊と連絡を絶つこと七十日、酷暑と寒冷と飢餓を克服してよく使命を達成した。ビルマ乾季の名物山火事を配し、前進部隊の道付け作業に續けて、困苦の行軍を續ける部隊の行動を描いた。

新生比島建設

川島理一郎

昭和十八年七月十五日、第二回の比島訪問を行つた東條首相は、マニラ・ホテルに比島獨立準備委員會のラウレル委員長以下ヴァルガス行政長官等要人と重要會談を試みた。東亞共榮圏の強力なる一環比島が、盟主日本と志を同うして雄々しく起上る地固めはかくて談笑の裡に出來上つたのである。

マユ河渡過

田中佐一郎

昭和十八年三月二十四日、ビルマ奪還を企圖する英印軍に鐵槌を加ふべく、棚橋部隊は一氣にマユ河を渡過して敵背後

五

に進出、マユ山脈を突破してインデンに敵を殲滅した。陰曆十七日の月明下、軍旗を捧じた棚橋部隊長以下、渡河決行の直前を示すものである。

六

ラングーン防空とビルマ人の協力

鈴木 亞夫

昭和十八年七月、暴英の桎梏を脱して獨立したビルマは、共榮圏建設を目指して遅しい發足をした。戰意破摧を狙ふ敵は、絶えざる盲爆を加へ來るが、ビルマ民衆は敢然これに對抗し、挺身我が防空陣に協力しつゝある。防火に奮闘する消防隊、白衣、ロンジ一の婦人達は義勇看護婦隊の雄々しい姿

である。

〇〇方面鐵道建設

猪熊 弦一郎

雨季の〇〇山岳地帯、大自然の暴力と闘つて、黙々血の出る如き忍苦の中に鐵道建設を續ける我が部隊の作業を描く。これこそ火器による壯烈な戦闘と比較して、地味ながら斷じて劣ることのない戦である。

東部印度チンスキヤ爆撃

高畠 達四郎

昭和十七年十月二十五日、東部印度の要衝チンスキヤ、オークランド、デイーグボイ等に對する攻撃命令下るや、我が

七

陸鷲の精銳は、勇躍アラカンを超えて初の東部印度爆撃を行つた。地上の敵機二十二機を撃破、攻撃し來つた敵ホーカー・ハリケン、カーチスP四〇の如きも、我が精銳の前には脆くも一機宛撃墜される外はなかつた。有名なる穴吹軍曹が愛機よりガンリンを放出しつゝ無事歸還したのもこの戦闘である

八

タサフアロング

中村 研一

(ガダルカナルに於ける陸海共同上陸作戦圖)

昭和十七年〇月〇日二十時四十分、ガダルカナル島タサフアロングに敵前上陸を強行した我が〇〇兵團は一氣に輸送船を海岸に突入擱坐せしめた。ツラギ方面より來襲した敵コンソリーデーテッド機の投下する爆弾、照明弾下、同島に苦難

の守備を続け來つた我が海軍部隊は、眞に一體となつて上陸に協力、遂に成功をみるに至つたのである。

佐野部隊長還らざる大野挺身隊と訣別す

田村 孝之介

昭和十七年十二月二十一日、ルンガ河三角洲の敵高等司令部を奇襲し、重要物件を破壊すべし。」との命を受けた大野中尉は、井島曹長、杉山上等兵の二名と共に勇躍出發、その約した一月六日夜半に敵司令部より一條の黒煙上るを望見し得たのみで、遂に再び還らなかつた。圖は、出發に先立ち佐野部隊長が自ら恩賜の酒、煙草を頒つて訣別する悲壯な場面。

九

大野挺身隊敵高等司令部に突入奮戦す

田村孝之介

同一作者による別圖、佐野部隊長に訣別せる大野挺身隊の奮戦状況を、敵側ラジオ放送によつて推知し、これを描いたものである。阿修羅の如き三名が敵司令部に突入、呆然たる敵が同士討を恐れて拳銃すらも發射出来なかつた、といふ放送は、正に大野挺身隊の奮闘を物語るものである。

本間、ウエインライト兩司令官會見圖

宮本三郎

昭和十七年五月五日、皇軍の果敢なるコレヒドール敵前上陸に屈した米比軍は、遂に降伏の申出をし、翌六日十八時バタアン半島カブカーベンの民家に、我が本間司令官と敵將ウエインライトの會見が行はれた。敵はコレヒドールのみの降伏を申出で、全比島降伏と切離すべき策謀を試みたが我は應ぜず、既にコレヒドールは焰上して彼等の運命を示してゐる

香港に於ける酒井司令官ヤング總督の會見

伊原宇三郎

昭和十六年十二月二十五日、香港は遂に降伏と決し、總督ヤングは代將モルトビーを具して九龍ペニンシュラ・ホテル

に我が酒井司令官と會見、英の東亞侵略據點は全く潰滅した。憔悴焦慮しつゝも傲岸を装ふヤング總督、悄然たるモルトビ
1代將の姿は、敗戦暴英の正體を如實に示すものである。

汪主席と中國參戰

清水登之

昭和十八年一月九日、新生中華民國の對米英宣戰布告は、聖戰途上の劃期的出來事であつた。三月十日、我が陸軍記念日に當り南京清涼山に催された日華兩軍共同大演習は、共生同死の固い決意を物語るもので、畫面向つて右より林宣傳部長、山内防衛司令官、一人置いて仁海軍部長、畑總司令官、樋澤參謀、汪主席、鮑總參謀長、松井參謀長、褚外交部長、葉陸軍部長、周外交部次長、唐川參謀副長の諸氏である。

西部蘇滿國境警備

石井柏亭

開戦半歳を出でずして全南方要地を制壓し得た皇軍の迅速果敢な作戦行動は、嚴たる我が關東軍精銳の鐵壁陣あつて、始めて行はれたことである。圖は〇〇監視哨より國境線を隔て、ブクツール山麓に點在する蘇聯軍兵舎を望む、我が警備第一線を描いたものである。

患者後送と救護班の苦心

鈴木良三

敵機の爆撃、敵潜艦の雷撃と、天人俱に許さざる鬼畜の如き蠻行に怯かさながらも、傷病兵の前線復歸一日も早かれと念じつゝ、献身する白衣天使、救護班の健闘を描く。

衛生隊の活躍とビルマ人の好意

鈴木良三

一四

世界に誇る我が軍陣醫學は、外科的技術のみならず、悪疫の豫防に、治療に、大なる戦果を挙げ、共榮圈建設の大いなる礎石となつてゐる。圖はビルマ作戦に於て、民家床下に急設された假繙帶所の光景で、全面的なビルマ人の協力は、彼等の信賴と好意を物語るものである。

小田軍曹機の體當り敢行よく船團を救ふ

吉岡堅二

昭和十八年五月八日、ニューギニア西北方カルカル島沖上空、我が輸送船團を護衛中の森下飛行隊小田軍曹機は、來襲した敵ボーイングB十七E型機を攻撃、效果少しとみるや敢然體當りを行つてこれを撃墜した。敵機と共に南海に沈んだ小田軍曹機こそ、我が船團を救ふ偉勳を樹てたのである。

山東省馬鞍山廟陣地攻撃

矢澤 弦 月

山東省博東地區の要害馬鞍山は、山頂の廟堂十數個を利用した堅固なトーチカ陣地で、支那共產軍の特む天嶮である。昭和十七年十一月、この殲滅を期した我が引地部隊は、三個の石門を繋ぐ幅二尺の急傾斜道を山頂に向つて突撃を敢行、惡戰苦闘の後遂にこれを攻略した。圖はこれに協力した梅田

一五

騎兵隊が、負傷した隊長を陣頭に最後の突撃を試みた状況である。

インデン附近の戦闘に敵英第六旅團長我が

軍門に降る

小早川 秋聲

昭和十八年四月六日、インデン南端の東北一二七高地を占領した棚橋部隊は、敵の退路を完全に遮断し、遂にその戦意を抛棄せしめた。英第六旅團長ガベンディッシュ准将は、頭部に負傷した副官ストラチアン大尉を帯同、我が軍門に降るの餘儀なきに至つたのである。

インデンの夜襲

小早川 秋聲

神武天皇祭を期して開始されたインデン總攻撃の第五日、昭和十八年四月七日、ビルマ作戦の華インデン部落の夜襲を描いたもの。我が棚橋部隊の神速果敢は、實に桶狭間の織田信長を偲ばせるものがあつた。

ビルマ獨立式典圖

小磯 良平

昭和十八年八月一日、ビルマ行政政府成立の一周年記念日を期して、光榮ある獨立がビルマに附與された。實に大東亞建設の我が戦争理念實現である。暴英の桎梏より解放されたビルマがバー・モウ國家代表兼首相の下に新發足をなさんとす

る、その日の歴史的式典を描いたものである。

一八

日緬條約調印圖

小磯良平

獨立の榮譽に輝く新生ビルマが、帝國と手を携へて新東亞の建設に起ち上つた昭和十八年八月一日、バー・モウ國家代表と我が澤田大使は、軍事、政治、經濟にわたり協力すべき日緬條約に調印、共に聖戰完遂を誓つたのである。

コレヒドール猛砲撃

笹岡了一

昭和十七年四月、バタアン半島の米比軍を撃滅した我が精銳は、鐵の要塞コレヒドールに對して猛攻撃を開始した。金

枝玉葉の尊き御身を以て砲兵隊の御指揮に任せられる東久邇宮盛厚王殿下が、北島部隊長以下を従へさせられ、敵彈雨飛の中に御奮闘遊ばさるゝを謹畫せるものである。

ニューギニア密林地帯を征く陸軍輸送部隊

伊藤悌三

スタンレー山脈による敵大部隊の前面に進行、勇戦中の友軍に對して濕地帯、悪疫と闘ひつゝ食糧彈藥を補給する我が輸送部隊を描く。千古の原始林中、幽かに洩れる陽光を頼りに朽木を踏み越え、氣根を潜る將兵の勞苦は、言語に絶するものがある。

一九

揚子江三角地帯春季進攻作戦

井上幸

110

敵將王勁哉が三年餘の月日と人力と財力の限りを盡して構築した千餘の大小トーチカに對し、昭和十八年一月、我が精銳は斷乎撃滅の火蓋を切つた。支那作戰に於て比類なしと稱される此の湖北地區の大防禦陣地も、我が猛攻の前には僅々一週間にして潰滅、七千餘の敵は殲滅され、王勁哉以下二萬は我が軍門に降つたのである。



東京文化財研究所
2010. 8. -4

3月
944